



5月うぶやま天文台星空情報 1

みずがめ座 η (エータ)

流星群を見よう



天空が広がるうぶやまの高原は、若葉の緑が映える季節になりました。

天文台の周りにも、爽やかな初夏の風が吹いています。夜半の外気温は15°C位で、暖かく、宵の空には木星、火星、冬の星座が西に傾き、おおくま座の北斗七星から、うしかい座の1等星アークトゥルス、おとめ座のスピカと続く春の大曲線や、それらの1等星と、しし座の2等星デネボウを結ぶ春の大三角や、おおくま座、おとめ座、しし座などの星雲、星団が見頃です。

5月の星空情報1は、5月上旬の頃に活動するみずがめ座 η (エータ)流星群です。

10月のオリオン座流星群と同じく、ハレー彗星を母体とする流星群として知られています。南半球では夜明け前に放射点が高くなり、多くの流星を見ることが出来る流星群です。日本では放射点が低いうちに夜明けを迎えてしまうため、南半球ほど多くの流星を見ることができませんが、毎年見られる主要な流星群の一つです。今年は月明かりの影響を受けず、条件よく観察できそうです。

今年のみずがめ座 η 流星群の極大は、5月6日12時頃と予想されています。

日本では昼間の時間帯で観察出来ませんが、この流星群の活発な期間は比較的長く続くため、6日と7日の夜明け前が見頃となりそうです。日本では観察に適した時間帯は大変短く、夜明け前の1時間半程度となります。最も多く見えるのは6日と7日の3時頃で、実際に見える流星の数は、空の暗い場所で、1時間当たり5個~10個程度と予想されています。この半分くらいの流星が流れる期間は長く、5月3日~9日頃まで続きます。極大日に限らずに、よく晴れた日を狙って観察してみてください。

流星は、放射点を中心に放射状に出現します。ただし、放射点付近だけでなく、空全体に現れます。いつどこに出現するのか分かりませんので、なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。

みずがめ座 η 流星群では、放射点があまり高くなり、経路が長く見える流星が目立ちますので、注目してみましょう。

観察する際には、屋外の暗さに目が慣れるまで最低でも15分ほどは観察を続けると良いでしょう。レジャーシートなどを敷いて地面に寝転んだり、背もたれが傾けられる椅子に座ったりすると、楽な姿勢で観察出来ます。観察に適した明け方の時間帯は冷え込むことがありますので、寒さへの対策も忘れないでください。事故に遭わないように十分注意して、マナーを守って観察をしてください。

みずがめ座η流星群と放射点

